

# かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ 所在地：南巨摩郡富士川町鯉沢771-2

TEL：0556-22-8154 FAX：0556-22-8144

HPでカラー版が御覧になれます。URL <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

## 平成26年度 峡南地域教育フォーラム 開催 NO.2

前号で御紹介いたしました、峡南地域教育フォーラムで茨城大学社会連携センター准教授の長谷川幸介氏が「子どもをとりまく地域の力」と題し、御講演をされました。先生は、社会化・文化化を支える3つの場（学校・地域社会・家庭）と子どもに授ける（子どもが育つ）3つの力（学力・社会力・自己肯定力）について次のようにお話しされました。



長谷川幸介氏

人間は、地球上で生きていくために地球を次々に開発し、自分たちが住みやすいように環境を変えてきた。その時に培った技術や知識、これを「学力」という。人間は、150年前に学校を創り、次世代をつくる子どもたちを育てるために、幸せになるための「学力」を授けられた。この地球上で生き延びるためには、これらをしっかり伝えていかなければならない。学校で教える技術や知識、すべての正解はただ一つである。ただ、学力だけで、人間は社会化でき、大人になれるわけではない。一方、地域の様々な大人たちからも、大人になる力を授けられる。これを「社会力」という。人間という動物は、独りでは生きられないため、人とつながる力をつける。このつながるための道具が「挨拶」である。挨拶は、人間がつながるためにつくった幸せの武器である。心をつなげていくために、手をさしのべ手を合わせていく、これが挨拶である。学校では、教える科学、つまり幸せな技術や知識における正解は一つである。ところが、地域においては、いろいろな人が住んでいるのだから、正解はその人の数だけあり、多様である。家庭においては、「自己肯定感」つまり、自分がかげがえのないもの、家族があるのは自分があるおかげだと思える力を育てていくことが大切である。「学力」があっても、体力があっても、自分が自分のことを誇りに思えなかったらだめなのだ。いろいろな関わりの中で生きている自分、頑張っている自分を褒められなくてどうするのか。子どもに対して、絶対にやってはいけないことは、人と比べることである。あなたはいいところをもっている、そういう期待に子どもは応え、健気に頑張るのである。自分がこの家族の中で重要な役割を担っている、そう思える時、子どもは、健気にも、自分はこの家族の中に絶対に必要であると思う。子どもは頑張り、力を取り入れていくのである。私たちは、次の世代の子どもたちに、「子どもたちが幸せになってほしい」「私たちのつくった社会をどうにかしてほしい」というメッセージを渡し続けなければならない。今日は、子どもが3つの力をつけるためにどう関わりをもっていけばよいのか、私のもっている人間観をお伝えしました。というお話でした。

### 山人会賞 受賞 身延山高校 手話コミュニケーション部



身延山高校の手話コミュニケーション部は、平成15年に設立し、今年で創部12年となります。現在は1年生6名、2年生3名、3年生5名、合計14名の部員が活動しています。県内唯一の手話部であり、「手話の技術の修得や手話の普及を通して、聴覚障がい者の理解と部員の親睦を深め、聴覚障がい者機関や団体との連帯を図り、差別のない平等で心豊かな社会の実現に向け貢献すること」を目的に活動しています。活動は県内にとどまらず、東日本大震災被災地の復興支援や世界50カ国のキワニス関係者が集まった国際キワニス主催世界大会（キワニス：世界三大ボランティア団体の一つ）での手話教室など、多岐にわたっています。長年にわたるこの活動の優れた功績が認められ、平成26年度山人会賞を受賞しました。

# ☆☆連載特集『峡南地域の食材』No. 5



## 身延町「食改さん」と「ゆば」

### 1 身延町の自然環境

身延町は、山梨県の南部に位置し、中央を北から南に日本三大急流の一つである富士川が流れ、その支流として、早川、常葉川など大小の河川が流れ込んでいます。富士川を挟んで東西それぞれに急峻な山岳地帯が連なっており、北にはなかとみ和紙の里が、南には身延山久遠寺が、東には下部温泉や富士五湖の一つである本栖湖があります。ゆば・竹炭・南天・西島和紙・大豆・手作り味噌・しいたけ・ヤマメ等の特産品があり、桜の季節には、身延山久遠寺に多くの観光客が訪れます。

身延町は、2004年（平成16年）9月13日に旧下部町・中富町・身延町が合併して誕生し、「安らぎあるまちの創造、ひらかれたまちの創造、活力あるまちの創造」を基本理念に掲げています。

### 2 身延町食生活改善推進員会「食改さん」による活動

身延町食生活改善推進員会は、身延町合併誕生後、2005年（平成17年）4月1日に旧下部町・中富町・身延町の食改を合併し発足しました。現在会員数は、101名です。

「男性のための料理教室」「『TUNAGU』（繋ぐ）パートナーシップ事業」等の受託事業は勿論のこと、地域食生活改善普及活動を行っています。特徴ある取組みとして、生活習慣病予防健診の受診者に、減塩の料理を試食してもらい、健康づくりのための減塩生活の啓発を行っています。今年は、“鮭のさわやかごはん”を試食してもらいました。また、乳児健診時には、健診前に離乳食を作り、健診終了後に保護者に試食してもらい取組みを行い、簡単な手作り離乳食の作り方を広めています。離乳食の調理形態は、月齢で5～6ヶ月はごっくん期（飲み込む練習）、7～8ヶ月はもぐもぐ期（舌でつぶして食べる）、9～11ヶ月はかみかみ期、1～1歳半はぱくぱく期と分類しています。それぞれの月齢に合った、食材・調理方法・硬さ・摂取量を記載したパンフレットを配布しています。食生活改善の活動を通し、地域の健康づくりに貢献しています。



平成26年度身延町食生活改善推進員会  
会長 川口まつ彥様（←左）  
副会長 赤池 秀子様（中央）  
会 計 山田 千鶴様（右→）

### 3 地域の特産品の一つ「ゆば」

「ゆば」は、その昔、中国からの留学僧を通じ伝えられたと言われています。「ゆば」の原料「大豆」には、植物性タンパク質と良質の脂肪分が含まれ肉食を禁じられていた僧侶たちの貴重な食品でした。身延の「ゆば」は、日蓮上人が身延山在山中に弟子が大切な師の栄養源として作り、それが現在に伝えられたものです。七百年の歴史を持ち、今日では精進料理に欠かせない食材となっています。

今回は「みのぶゆばの里」の御協力により、生ゆばの製造工程を紹介します。



①厳選大豆を半日水に浸す



②煮た大豆を砕き絞る



③ゆばの原料豆乳と布に残った「おから」に分ける



④豆乳表面に張った膜を1枚1枚棒であげ折りたたむ



⑤生ゆばの整列



「ゆば」商品

HPで「かけはし」カラー版が御覧になれます。 <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>



## 早川陸上クラブ

10月9日「早川陸上クラブ」取材のため、早川中学校グラウンドを訪れると、22名の陸上クラブ員と望月弘一コーチが、元気のよい挨拶と明るい笑顔で迎えてくれました。早川陸上クラブは、28年間という長い歴史の中で、多くの優れたアスリートを生み出し、数々の記録をぬりかえてきた、名門クラブです。現在も、この陸上クラブ出身者の記録が、5種目において県中学生ベスト記録として残っています。早川陸上

クラブの開設は、28年前、現コーチである望月弘一さんが、自らの陸上選手経験を生かして「山間地の子どもたちを、県の大きな記録会に挑戦させ、自信と積極性を育てたい。」という願いを抱き、陸上指導を始めたことによります。現在、22名の小中学生が在籍し、小学生は週に2回、中学生は週に3回練習を重ねています。小学生は遊び的な要素を取り入れながら総合的な体力作りに重点をおいた指導を、中学生においては最高のパフォーマンスが出せるよう専門的な技能の習得に力を入れた指導をしています。指導するコーチは、望月さん、深沢さん、安藤さんの3名です。取材日、中学生は10月18日～19日の新人戦に向けて、小学生は25日の県小学生陸上記録会に向けて、真剣に練習に励んでいました。全天候型の練習レーンや夜間照明を完備した素晴らしい環境の中で、毎週、継続的に練習に打ち込めること、熱心な3名のコーチの指導により、丈夫な体と高い技能が身に付いていることは、本当に幸せなことだと感じました。また、高い技能を学んだ先輩生徒が、下級生に個別指導している姿も素晴らしいと思いました。陸上クラブの主将である鞍打さんは、望月コーチについて「私のよい面もよくない面もしっかり見てくれる。小学校の時からずっと面倒を見てくれ、ここまで来られたことを感謝している。」と話していました。アスリートたちのさらなる活躍を期待しています。

## 早川町 昔の遊びを伝承する会

平成8年に早川町にある日本上流文化圏研究所の活動の一つとして“遊び部会”が発足しました。

この“遊び部会”は、子ども達が草や木を使用した遊び“山遊び”を知り、自然体験や仲間作り、道具の使い方を学ぶことにより、良き大人になる手助けをしてきました。また、早川町の文化を伝承するために活動を行ってきました。平成14年に独立し、“昔の遊びを伝承する会”と改名して現在に至っています。活動は、学校への出前、トラねこ市、山菜まつり、そばまつり、町外のイベント。交流会で、竹とんぼ、水鉄砲、弓、お手玉、うぐいす笛、ゴム管、積み木の作成実演と体験講座を開き、文化の伝承と喜びを伝えることを行っています。これからは、後継者を育てていきたいとのこと。皆さんも、昔の遊びを体験してみませんか。

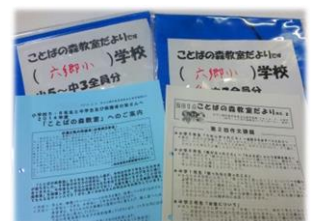


昔の遊びを伝承する会の皆さん



## 市川三郷町教育委員会「ことばの森教室」作文指導の取組

「地域の子どものために」と、退職された町内の先生方が、小学校高学年児童及び中学校の生徒を対象に「ことばの森教室」という作文指導に力を入れています。学校生活でも社会生活でも、自分の意志や思いを表現し、伝えることはとても大切であるという先生方の熱意が、この作文指導という形になったものです。指導者の先生方は、中学校や高等学校において国語を担当されていた退職教員の方々です。年に4回、希望する小中学生に課題テーマに沿って作文を書いて提出してもらっています。平成25年度・26年度ともに、144名の小中学生の参加があり、何年も継続して指導を受けている児童生徒もいます。また、そのかけはしとなり、教育委員会、学校、指導者の先生方の連携をとり、この事業を支援しているのも、退職教員の島田先生です。島田先生は「国語を専門職とされていた先生方の作文指導を繰り返し受けるうちに、子どもたちの書く力・表現する力は確実に伸びている。また、作文を書くために情報を収集したり知識を獲得したりする行為は、豊かな人間性を培うことにつながっている」とおっしゃっています。今年度も、あと2回、新たな課題に対する若き文豪たちのチャレンジが行われます。



# 平成26年度 少年海洋道中！



海洋道中だよ！ 全員集合！

今年度の「やまなし少年海洋道中」は、峡南地域からの9人を含め総勢47人が参加して、伊豆諸島・八丈島にて8月1日（金）～8日（金）の日程で無事行われました。（9日までの予定でしたが、



エメラルドの海：スノーケリング体験

台風の影響で、8日深夜に急遽帰郷）。昭和63年から行われているこの事業は、物質的な豊かさや便利さの中にある青少年に対して、心の豊かさやたくましさや大自然の中で身に付けてもらうことを目的としています。テント設営や野外生活技術を習得して「地域交流の日」「海洋の日」「サバイバルの日」等を設け、それぞれ密度の濃い内容が展開されました。クルージング体験やスノーケリングでは、トビウオの飛んでいる様子、ウミガメの雄大な姿等々、美しい魚と色鮮やかな海中の様子を間近で見ることができ、大歓声があがりました。また、2日間のサバイバル踏破では、チームワークのもと野外泊（ビバーク）をし、島を歩き通しました。

参加者からは、「島の自然、島民の方々の優しさ、透きとおった海、天の川に見える夜空、どれも経験のないものばかりで感動した。」「自分で生活する力がついた。」「1日なくなり残念だったけど、言葉では表しきれないほど山梨では絶対にできない体験ができてよかった。」など、たくさんの感想が寄せられました。



島の方々とお別れの時！

最終日、八丈町教育委員会をはじめとする関係者の見送りを受け、橘丸にて八丈島を後にしました。出航後、どこまでも追いかけてきてくれるモーターボートとジェットスキーに向かって「八丈島最高！」「ありがとう！」声で叫び、いつまでもいつまでも手を振っていました。

8月の後半は、八丈島の小中学生が来県。第2弾の交流を行いました。ハヶ岳少年自然の家でテント泊をし、8月18日（月）～21日（木）まで県内で過ごしました。20日（水）には、海洋道中に参加した47名との再会。そば打ち体験をした八丈島の子



海洋道中メンバーとの再会！  
八丈島の子達が、山梨産そばで、おもてなし



八丈の子ども達 スケートに挑戦！

ども達のそばを、みんなでおいしくいただき、その後は、一緒にオリエンテーリングをして楽しみました。八丈島の子も達は、このほかにも、科学館見学・ブドウ狩り・滝での水遊び・溪流釣り・乗馬など、たくさんの体験活動を行い、大いに山梨を満喫して帰郷しました。

## デートDVに関する講演会

DV（ドメスティック・バイオレンス）は、「身体的暴力」「精神的暴力」「性的暴力」「経済的暴力」「社会的隔離」があります。峡南高校（矢野博文校長）では、平成26年9月17日（水）にNPO法人湘南DVサポートセンター理事長の瀧田信之氏を講師に招き、「それ、恋愛じゃなくて、DVです！」～誰も被害者にも加害者にもならないために～と題し全校生徒に講演会を行いました。生徒が保健室で相談する内容の一つとして男女交際があります。内容的にDVではないかと疑われるものもあり、デートDVを身近な問題として生徒に認識させました。また、デートDVの防止及び将来のDVの未然防止、健全な男女交際のあり方についてのお話でした。



## 異校種連携・地域連携に係る行事一覧冊子の発行 下半期

峡南地域管内の保育所（園）、小中学校、県立学校、さらには関係機関の御協力により例年発行している平成26年度版『峡南地域における異校種や地域連携に係る各所（園）、各校の行事予定（下半期分）』の冊子ができあがりました。御協力ありがとうございました。この冊子では、異校種連携や地域連携に関わるさまざまな行事を数多く紹介しています。是非、各地域社会や子どもたちのために有効活用をよろしくお願いいたします。